

【5つの円卓会議】

環境モデル都市行動計画(アクションプラン)の取組を市民協働で進めていくため、より具体的な取り組みや事業内容を検討・実施・検証していくために、5つの部会(円卓会議)を設置しました。

今年5月に発足した5つの円卓会議、「ゼロ・ウェイスト円卓会議」「自転車・公共交通円卓会議」「食と農と暮らしを考える円卓会議」「ISOのまちづくり円卓会議」「環境学習円卓会議」では、目指すべき将来像やそれぞれのテーマについて、企業や団体等の実務的な関係者が、互いの立場を超えて意見を出し合い、アクションプランの実現に向けた話し合いを続けています。

部会名(メンバー)	目的	議論の主な内容	当面の目標
ゼロ・ウェイスト円卓会議 (熊本学園大、ごみ減量女性連絡会議、リサイクル推進委員、エコネットみなまた、エコタウン協議会、婦人会、水俣自然学校、水俣教育旅行プランニング、環境マイスター、市職員など)	・ごみの出ないまちを目指す ・ごみを出さない暮らしの仕組みづくり	・ごみを減らし、最終的に燃やさない、埋め立てないためにどうするか。 ・従来の分別収集の方法や新たな収集方法などの検討 ・給茶スポットの設置に向けた検討	・ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)宣言を11月に行い、将来に向けた目標を明確にする。 ・ゼロ・ウェイストに向けた具体的な取組を検討する。
自転車・公共交通円卓会議 (自治会、自転車商組合、チッソ、MTBクラブ、商店会連合会、警察署、産交バス、地域婦人会、市職員など)	・自転車のまちづくり ・公共交通(バス等)の活用の検討 ・交通手段の組み合わせによる活用	・CO₂の排出がない自転車(徒歩)の活用方法、利用促進 ・市民への周知方法 ・自転車やバスを組み合わせた活用方法の検討	・自転車の市民共同利用システムの活用 ・市民への周知を図るために、イベント等の開催を企画する。
食と農と暮らしを考える円卓会議 (寄ろ会、愛林館、食生活改善推進員、栄養士会、保健所、学校給食センター、JAあしきた、森林組合、漁業協同組合、ガイアみなまた、環境マイスター、市職員など)	・地産地消のシステムづくり ・安心安全な食の提供、できるだけ農薬を使わない生産方法	・地産地消の促進のための方法 ・子どもたちへ安心安全な食べものを提供(給食センターの活用) ・市民への周知	・菜の花プロジェクトの推進(生産から消費への循環方法を検討する) ・休耕田の活用や健全な山林づくりなど多角的に検討する。 ・水俣の特産物づくり
ISOのまちづくり円卓会議 (ISO監査委員、青年会議所、ごみ減量女性連絡会議、婦人会、商工会議所、水俣高校、校長会、さくら保育園、市職員など)	・環境に優しい取組みをシステムとして導入する ・水俣独自のISOのさらなる推進	・家庭での取組みをいかに推進していくか方法を考える。 ・市民への周知方法、仕組みづくりを構築する。	・家庭版ISOの見直し検討 ・参加する家庭が増えるための方策を検討 ・より簡便な方法による記録などの方法を検討
環境学習円卓会議 (エコタウン協議会、水俣教育旅行プランニング、相思社、環境センター、みんなの会、環境塾、ほっとはうす、水俣自然学校、村丸ごと生活博物館、水俣病資料館、市職員など)	・環境学習の仕組みづくり、カリキュラムの構築 ・環境学習都市水俣を目指す	・各年代、習熟度に応じた環境学習の仕組みづくり ・ひとつの仕組みをつくってから全体に広げていく方法をつくる。 ・これまでの環境学習の検証	・ゼロ・ウェイストに向けてまずはごみに関する環境学習に特化して検討し、仕組みを構築する。 ・小中学生、一般、リサイクル推進員等、それぞれに周知研修できる仕組みを考える。



円卓会議・合同会議



環境学習円卓会議



ゼロ・ウェイスト円卓会議

【ゼロ・ウェイスト宣言に向けて】

・ゼロ・ウェイストとは、ZERO＝ゼロ(なくす)、WASTE＝ウェイスト(ごみ、無駄や浪費)という意味です。つまり、資源やエネルギーなどの無駄や浪費をなくして、ごみを限りなくゼロにしていくという考え方です。豪州のキャンベラ市で始まり、米国のサンフランシスコ市やニュージーランドの多くの自治体が「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い、日本では徳島県上勝町、福岡県大木町が宣言しています。具体的には、近い将来にごみを燃やさない、埋め立てないという目標を立て、宣言をして取り組みを進めています。

水俣市では、ゼロ・ウェイスト円卓会議の中に作業部会を設けて、ごみ分別などこれまでの取り組みを踏まえた水俣らしい宣言とは？、目標達成に向けた具体的な活動計画、ごみステーション調査の実施と検証など、熱心に議論し検討を進めています。そして「環境モデル都市フェスタ」の中で「ゼロウェイスト宣言」を行い、取り組みの新たなスタートとします。